

# 2026年 6 月度 中部品質工学研究会 議事録

1. 開催日時 2026/6/6 (土) 10:00~16:00

2. 開催場所：中部品質管理協会 研修室

3. 会員参加者<敬称略> S：オンサイト出席・L：オンライン出席、欠：欠席、書：書記、休：休会、見：見学

大見	S	牧野	S	横尾	S	城越	S	伊藤	S	舟山	S	出島	S	水田	S
山口(展)	S	黒田	S	山口(直)	S	前田	L	木村	S	北村専務	S	北川	見		
河合	休	杉浦	休	福田	休	池田	休								

4. 研究会内容

## 1) 「RQES発表資料確認」(舟山、木村、山口展)

### 題目「パラメータ設計演習用教材開発に関する活動報告」(舟山、木村)

・全体構成と紙コプターパート(舟山)

以下の点で修正アドバイスいただいた。

1. 予備実験と結論の矛盾を考察を交え丁寧に説明する。2. まとめに今回の実験から学んだ次回に活かすべきことを入れる。

・コマ実験教材パート(木村)

以下の点で修正アドバイスをいただいた。1. P-daigramの入力は回転数ではなく回転力とすること。2. まとめに今回の実験から学んだ次回に活かすべきことを入れる。3. コマの改善案について、beforeとAfterを図付きで記載すること。

### 題目「旋盤加工における表面粗さリアルタイム全数検査システムの実装」(山口展)

以下のアドバイスをいただいた。

1. MT法特徴量導出の説明ページで、工夫点と内容が一目で分かるよう図を追加修整する。2. まとめページで、取り組み前後でのコストや精度などの比較を入れる。

## 2) 「品質工学会の課題と対応に関する細川氏との議論」(山口直)

細川氏を交え、会員数減少への対策をQFD(品質機能展開)を用いて構造化した取り組みについて議論した。細川氏より、VOC(顧客の声)を親和図法で集約し、アンケート分析を経て機能要件との品質表を作成したプロセスが共有された。今後は経営課題達成に向けたテーマ活動や会員メリットの拡大を目指す方針が示された。これに対し、当研究会メンバーからは「企業経営層へのアプローチだけでなく、技術者への利益還元によるボトムアップ型も検討すべき」「地方研究会には品質工学会未入会の在籍者も多く、KPIとしての会員数を過度に悲観する必要はない。」との意見が出され、多角的な視点から有意義な議論が行われた。

## 3) 「(前回の続き)Fコストの分析」(水田)

Fコストの分析について前回の続きから、進捗報告と今後の方向性について相談した。自然言語記述の形態素解析までの進捗を報告をした。データ処理の工夫が必要のことで、有識者に相談しながら進めることにした。またFコスト予測に関しては、T法を使うことになり、ある程度のイメージができたので、これも進捗に応じ研究会で相談しながら進めることにした。

## 4) 「品質工学初学者向け教育資料の紹介」(黒田)

品質工学を知らない初学者向けの教材の紹介を実施し、間違っている点や内容に関して、また作成するにあたっての下記アドバイスを頂いた。

・TQCのグラフが異なる、縦軸を損失にしたほうが良い、初心者向けの内容ではない、など。・SN比の絵が分かりづらい。・ロバストの内容が出てくるが唐突感がある。・作成する際に骨子をプロンプトに入れるとやりやすくなる。

## 5) 事務局連絡(山口直)

◇合宿研究会(2026/11/7~8)

あいち健康の森プラザホテルの宿泊、会議室、食事等予約済

◇対外関係

・品質工学シンポジウム 2026.10/02 発表者：山口展

・業務改善事例発表大会 2026.10/21 発表者：山口展